

## 第5学年「社会」学習指導案

授業者 岩坂 尚史

2月20日（木）4階A室 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

### 1 題材名 私たちの暮らしと自然災害～水害を防ぐためにはどうすべきか～

#### 2 題材について

（1）【場面設定】：「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容

我が国は、地形や気候などの関係から、様々な自然災害が起こりやすい。昨年の10月には、台風により大きな被害が出た。台風や大雨等による水害を防ぐにはどうすべきか。東京都で建設されている高規格堤防（以下スーパー堤防）について考えよう。

#### （2）本題材について

我が国は、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害など様々な自然災害が、国土の地形や気候などの関係から起こりやすい。その自然災害から国土を保全し国民の生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めている。子どもたちが見通しを持って、自身のテーマについて調べそれらのことを理解した後に、台風や大雨等による水害を防ぐための対策や事業として、東京都で行われているスーパー堤防について提示する。

台風や低気圧が接近すると、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇する（高潮）。また、海岸に向かって強い風が吹くと海水は海岸に吹き寄せられ海岸付近の海面が上昇する（高波）。隅田川と荒川の間にある地域（東部低湿地帯）では、満潮時よりも土地が低く（A.P.+2 m以下）、東京都では大雨による洪水とともに、高潮や高波の対策が必要である。その1つとして、東京都ではスーパー堤防の建設を昭和60年から進めている。これは、大地震に対する安全性をより高め、今後起こりうる災害に対して大きな期待がされるだけでなく、沿岸のまちづくりとして地域環境の向上にも一役かっている。一方で、スーパー堤防は現在、隅田川の約32%の完成にとどまっている。建設には、広い土地が必要であり、建物があるところ等では、当然工事を進めることができない。2010年度には、事業仕分けの1つとしてこの事業が含まれ、費用対効果が疑問視されていた。スーパー堤防の建設の是非について考えることを通して、どのような観点から考えなければいけないか見通しを持って学習を進め、自身の「判断の基準」を聴き合うことを通して、そこに潜む「判断の規準」や社会全体にとってよい「判断の規準」は何かを考えていきたい。

#### 3 学習指導計画（10時間目／全11時間）

1時～3時：我が国の自然災害について、具体的な事例をもとに調べる。

4時～6時：台風による水害について調べ、災害時の増水に対する対策（スーパー堤防）の是非について観点を整理し、それぞれについて調べる。

7時～10時：スーパー堤防の是非について、賛成・反対の立場から討議を行う。

11時：スーパー堤防の是非について自身の考えを記述する。

#### 4 本時の学習について

##### （1）本時のねらい

お互いが聴き合うことを通して、スーパー堤防の是非について、社会全体にとってよい「判断規準」は何かを考える。

##### （2）予想される本時の展開

| 主な学習活動と子どもの姿                                                       | 留意点                                                    |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| スーパー堤防の建設を進めるべきだろうか                                                |                                                        |
| ○従来の堤防は、壊れた時に大きな被害が起こるので、スーパー堤防に替えた方が良い。<br>●多額の費用がかかるし、建設する場所もない。 | ○どのような根拠を基に意見をしているのかが分かるようにする。<br>○社会全体にとってよいものは何かを問う。 |

#### □授業後の話し合いで話題にしたいこと

討議はどのように行っていけばよいか。